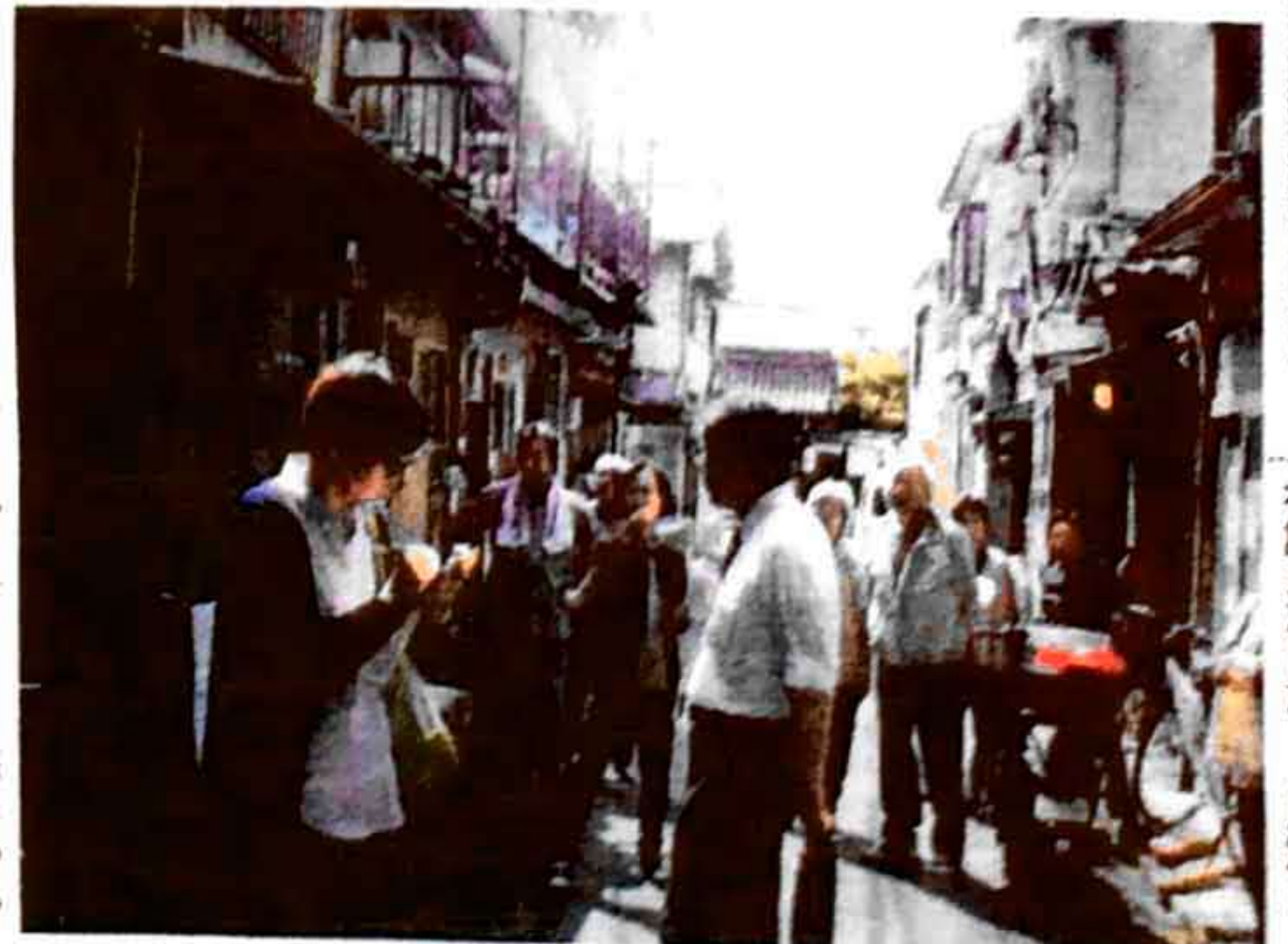


# 「民泊」計画を撤回



## 路地奥の連棟式建物に 上京区

町内会が張り出したポスターの前で計画撤回を喜ぶ住民と蔵田市議(右から2人目)11日



市が行った現地調査には住民26人が参加し、問題点を訴えました11月4月26日

京都市上京区の仁和学区で持ち上がった路地奥にある連棟式建物の一軒を「民泊」にする計画について、地域住民らは騒音、火災の発生など住環境悪化の危険性から反対運動を展開し、事業者が先月末、計画を断念しました。町内の約8割の住民による反対署名や、市や議会に計画を認めないよう求める要望書提出など、町内会挙げての運動が実りました。住民は「団結の力」と喜びの声を上げます。

予定地は、仁和学区 仁和小学区内の一番町。北野天満宮から約400mほど。軒の連棟式建物の1軒を改修し、家主不在型

反対署名、市議会へ要請

## 団結の力 結実

の小規模「民泊」(簡易宿所)を設置。広告業などを手掛ける「イーパワール」=東京都の安藤康司・代表取締役が所有者で、「民泊」運営会社「JP RESERVE」=伏見区が運営を行うというもの。JP社が昨年末、隣接する住民に突然あいさつにきたことで、計画が分かりました。

同町の用途地域は、準工業地域で、簡易宿所(「民泊」)の営業は可能な地域です。しかし、問題の「民泊」と隣の家との間にあるのは壁一枚。連棟内には、難病や障害を持つ人が住み、宿泊者による騒音などは、命と健康にかかわる切実な問題でした。

### 市内で有数の木造密集地区

防災面でも不安は大きく、学区は市内でも有数の細街路木造住宅密集地。計画地周囲の道路幅は狭く、消防車



「民泊」が予定された家屋(中央)

が入ることはできず、市が「優先的に防災まちづくりを進める地区に認定するほど。近くには仁和小学校や保育園も並び、子どもたちの安全面でも計画は問題でした。こうしたことから、町内では「こんな地域に家主不在型の民泊は約200人の住む一軒一軒を訪ねてきた。町内会では、76世帯に協力要請もしました。併せて、市を再三訪ねて「現地は許可できる場所ではない。現場を見てほしい」と要請。一方、地域では「民泊反対です」などと書いた手作りポスターを各戸に張り出しました。住民の結束した運動が功を奏しました。4月24日の市議会教育福祉委員会での陳情審査では、蔵田議員だけで

「計画撤回されました。ありがとうございます」と書いたポスターを張りだしました。6月10日には、運動の中心を担ってきた、前町内会長の足立幸江さん、今年度の町会長たな一歩を踏み出します。

「交流し、みんなで支え合い、魅力ある町内づくりへ」。町内会は新たな一歩を踏み出します。

市が行った現地調査には住民26人が参加し、問題点を訴えました11月4月26日

建築協定締結でまちづくり前へ

先月開催した町内会の臨時総会では、町内では「民泊」などの宿泊所を認めないなど、住み続けるためのまちづくりへ、建築協定の締結を目指していきくと相談。今月末には、市から、そのための説明を受けます。